

くすのき

親和女子高等学校 進路通信 高校3年 2021年度第2号

《第一志望の設定》

中間考査に向けて準備をしている人、部活動での最後の追い込みに入る人、様々にいることと思います。また、受験モードへの切り替えを行っている人もいるでしょう。前回記した勉強の様子はどうなりましたか。

さて、大学への進学を志望するにあたり、まず考えてほしいことは、なぜ大学へ行くのか、行って何をしたいのか、さらには、なぜその大学、学部なのか、です。2年生の段階ですでにそんなことは考えた、という人にはうんざりな話なのかも知れない。ですが、いざ願書を提出しようとする段階で、ここもあそこも、と不安を増幅させ焦る人が多々出てくるのが現状です。大学に入ることが目的ではなく、なりたい自分を実現するための通過点としての大学、というとらえ方が出来ているかどうか、今一度問うてみて下さい。

入れるのならどこでもいい、という言葉が、入試が押し迫ってくると盛んに聞かれます。その結果、体調・根気を無視して試験を受けまくる人が出てきたりもします。そもそも入れるのならどこでもいい、というのなら、地方の私立大学も考慮すれば、定員割れの所もあるので、入れるところはあります。ですが、その段階で、そこはイヤだ、遠いとか、行って選り好みをする。酷い時には、入学金などを取るために保護者と大学まで行ってやめる、というケースもありました。入ってから、やっぱり自分に合わない、といってやめる、というケースも見かけます。

明確な目的意識を持つこと。自分の**第一志望**を明確にしてほしい。今の学力云々で言うのではなく、ここに行きたい、ここで学びたい、という明確で強い意志が必要です。その意志があれば、自分が今何をすべきか、いつまでに何を済さなければならないか、といった計画・予定が見えてくるはずです。自分が決め、苦しんで入学できた大学ほど、大学生活は、充実したものとなるでしょう。

第一志望の大学・学部を設定して下さい。そのために必要な情報は、今の時代、インターネットなどでも多くを得ることができると思います。進路指導室にも資料はあります。相談に来てもらっても大丈夫です。ですが、まず自分が第一志望を設定しようと動かぬことには先には進めません。よく考えて下さい。

《志望を実現するために》

第一志望に合格するには何が必要か。まず**今の自分の学力を知る**こと。模試を受けたりすることで、自分の偏差値が示され、各大学・学部合格の偏差値も知ることができます。そこですでにめげて第一志望を諦めてしまう人がいます。あくまで、今現在の力です。そこから足りないものを知り、知識量を増やしていけばいいだけの話です。その量がどれだけか考え、計画を立てていけばいいのです。そして、常に思っておいてほしいのは、最終本番である来年の1月～2月、粘る人は3月に間に合わせればいいのです。受験は短期決戦ではありません。そこまでの長丁場です。それを頑張り抜く体力と気力が必要です。模試を受けるたびに一喜一憂するのはやめましょう。

次にどうやって勉強していけばいいのか、です。自分の得手不得手もあると思いますが、わからなければ、各教科の担当者に聞いてみるのが一番いいでしょう。一番身近であなた方を見守って下さっている先生方が、一番あなた方の力をわかっておられます。一度、相談してみして下さい。但し、「先生に言われたからやったけど効果上がらんねんけど」と不満をぶつ

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。

けないこと。言われたことを自分なりにアレンジするのも力です。自分なりの勉強スタイルを確立することが大事です。

問題集にしても、あれやこれやと次々と中途半端に手を出すよりか、標準的な問題集を1冊ほぼ完璧に仕上げる方がいい。標準的な問題集とは、授業の際に使っているものが目安になるかと思います。あとは先生に尋ねてみるといいでしょう。

《勉強のスタイル》

一日の生活のリズムを大きく崩さぬこと。一日のノルマを決め、それをコンスタントにこなしていくこと。スキマ時間を活用すること、などなど。

私自身の話で恐縮ですが、少し話を書かせてもらいます。

私は高3の時、理系にいましたが、物理がほぼわからないまま、工学部を志望していました。父が土木設計をしていた関係で、何となく自分の進路は工学部だと、中学生の頃から思い、進路設定をし、高校入学の時に書かされた宣誓書には、大阪大学工学部合格を目指す、と書いていました。何とも恥ずかしい話です。高校での成績は一番良かったのは、理系にも関わらず社会でした。地歴科目・公民科目共ほぼ学年のトップ層にいました。しかし、数学・物理・地学はほぼ学年最下位でした。当然受験前は焦りもありましたが、ほぼ諦めていた部分もありました。結果は浪人でした。浪人が決定した段階で、私は親に文系、それも文学部に行き歴史を学びたい、という話をし、文転をしました。

その後予備校に行きながらの浪人生活が始まったのですが、高3で怠惰な生活を送っていたこともあって、10キロほど太っていました。それで、今までの生活を一変させ、食べる量を減らす一方で、一日の生活のリズムをストイックなまでに切り替えました。朝から予備校に行き、昼間は、予備校横にあった公園で友人とフリスビーをして遊び、あとは夕方まで予備校の自習室で勉強。その後は、帰り道に見つけた公民館の自習室で6時半頃まで勉強。家に帰って夕食・入浴を済ませたら、1時くらいまで自室で勉強、そして、就寝。この生活をとにかく1年間通しました。体重はダイエットを始めて一月たった頃から落ち始め、ほぼ3ヶ月で8キロほど減量しました。成績は随分と良くなっていきました。ですが、模試の結果は必ずしもかんばしいものではありませんでしたが、全く不安を覚えていませんでした。受験直前の模試でも判定はD判定で、面談で志望校変更を進められました。第一志望は変えませんでした。第一志望の大学でこの先生に学びたい、という思いが強かったことが大きいのですが、それと、ここに至るまでの自分の努力に対してかなりの自負があったためです。

受験本番でも「自分が通らないで誰が通るんだ」という変な高揚した自信があり、受験は焦ることもなく落ち着いて臨め、結果は合格でした。

大学では、つきたい、学びたいと思った教授に学ぶ一方で、小学校の頃から憧れていた発掘作業員のバイトもしました。のめり込みすぎて、最後は土に埋もれて死ねたら本望かな、などと思っていましたが、途中でぎっくり腰をしてしまい、断念せざるを得ませんでした。

勉強のスタイルは人それぞれだと思います。ですが、貫き通す強い意志を持ってやってほしいと思います。

《後記》

来月に入ると各大学の案内や願書が出てくるようになります。自分が志望する大学などの冊子は、自分で取り寄せるなりして、見て下さい。進路指導部でも大学の冊子などは、順次資料室に入れています。また、Classiで説明会などの情報をアナウンスしています。残念ながら、リアルではなく、オンラインでの開催がほとんどですが、関心のある人は一度見て下さい。

汗ばむ季節に向かっていきます。コロナのこともあるので、体調管理に十分留意しながら、下を向いて歩むのではなく、青空を見上げて、ニコッと微笑むことができる心の余裕を持って、やっていきましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。